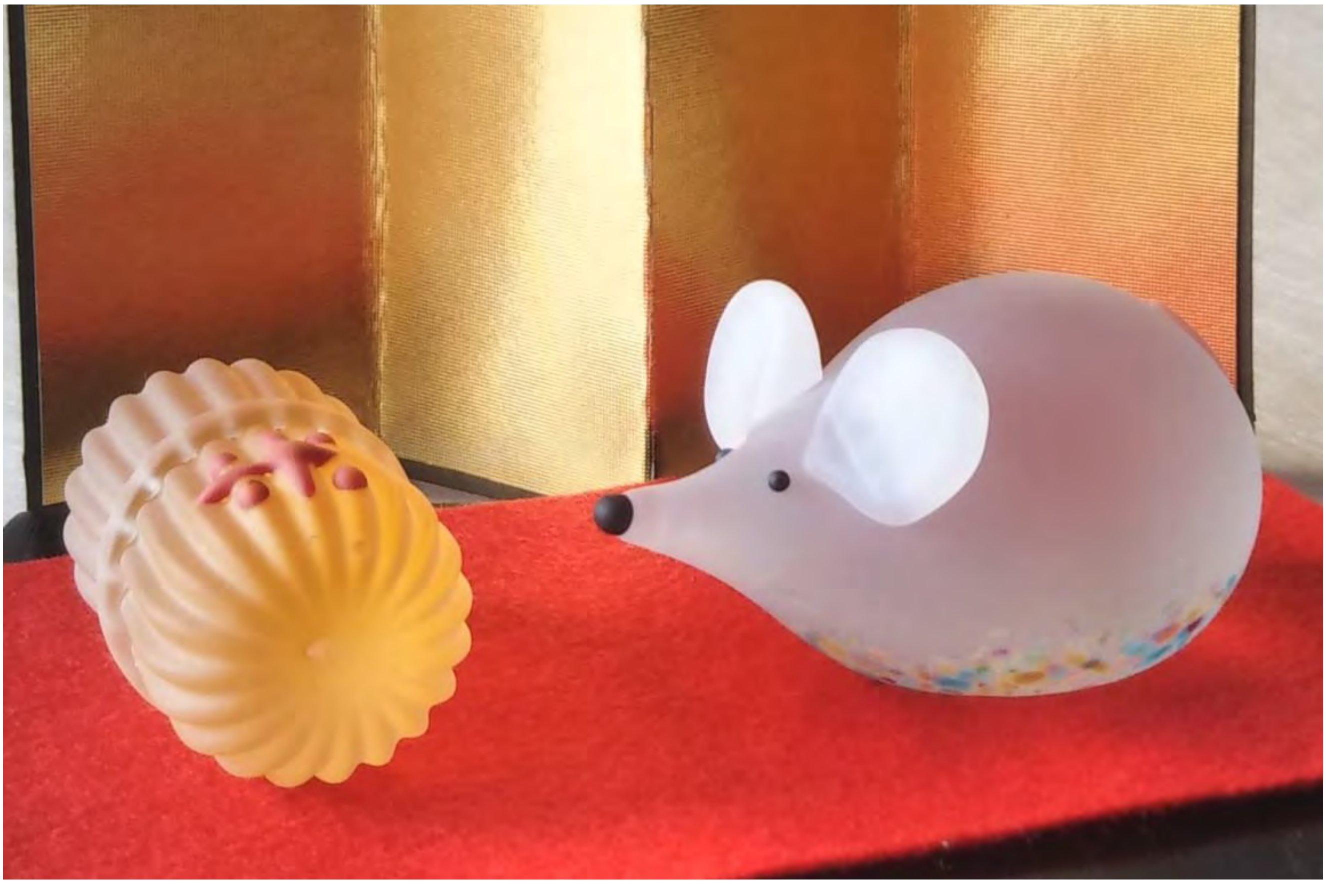
幸樹
こう　じゅ

第 58 号
2020 年 1 月 1 日

ホームページ　職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会
……………幸樹会事業所………………
からたち薬局・介護ショップからたち　☎047-710-2785
あんず訪問看護ステーション　☎047-701-5559
あんず居宅介護支援事業所　☎047-701-5558
ケアステーションゆず　☎047-701-5506
看護小規模多機能型居宅介護さんしょう　☎047-710-0331
幸樹会本部　☎047-701-7550
〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



「ガラスの干支」　宮城　真理子　作

明けまして　おめでとうございます

一般社団法人幸樹会代表理事　中野　三代子

幸樹会は昨年、皆さまのご支援のお陰で５周年を迎えることができました。12 月に記念誌『住み慣れた自宅・地域で自分らしく』を発行、５周年を祝う会を行いました。連携先・交流のある医師の先生方、地域の皆さまから温かい期待と激励のお言葉をいただきました。これからも一層努力していこうと職員一同励まされました。また、記念誌を読んだ利用者の皆さんから「自分に関わる事業所がこのようにしっかりした方針で運営しているところと知って嬉しい。これからもよろしく」とお言葉をいただきました。

『５周年記念誌』

新年にあたり、「理念と目標指向を大切に」を心にしっかりと刻み、さらに質のよい仕事ができるよう 2020 年も頑張ります。

今年は子年。子は十二支の一番目。生命が種子の中にきざし始める時期で、新しい物事や運気のサイクルの始まる年といいます。次の５年、先の 10 年に向けて、新しい気持ちで始めたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

幸樹会5周年祝う会ひらく

12月11日夜、幸樹会職員は全員参加して望年会を兼ねた手作りの「幸樹会5周年を祝う会」を開きました。近隣町会の皆さんや、医療機関の皆さんなど22名のお客様が来てくださいました。

代表理事・中野三代子の挨拶の後、医療法人社団鼎会顧問の高林克日己先生が「幸樹会と鼎会は良い関係を築いてきた。今後もさらに連携していきましょう」と乾杯のご発声。職員が食材を調達した手作り料理など美味しい物がたくさん並びました。

和やかな雰囲気のなか、参加者の皆さんから次のような一言メッセージをいただきました。千葉銀行八柱支店・中村建治さん「幸樹会のような、よりよい地域づくりに努める事業に資金協力できることは、銀行にとっても嬉しいこと。今後も益々発展することを祈っています。銀行として協力できることがあればいつでも声をかけてください」。牧の原2丁目町会・佐久間靖人さん「地域の高齢化が進んでいる。病院ができて、幸樹会ができて、安心が増えた。しかし、最近の気候の変動、水害のような、地域全体で取り組まなければならないこともある。もしもの時は、三和病院や幸樹会館が住民生活を守る拠点となってくれるのではないかと期待しています。これからも一緒に暮らしやすい地域づくりをしていきましょう」。上原こどもクリニック・上原孝先生「幸樹会は地域に必要なことに次々取り組んでいる。今後も新たな事業展開するのではないかと目が離せない」。鼎会理事長・齊藤丈夫先生「おめでとう。皆さんよく頑張られたと思います。私は『記念誌』に期待を書きましたので、それをお読みください」。福祉協同サービス馬場是さん「これからもより一層の連携をしていきましょう」。大岡甫さん「家内がお世話になりました。さんしょうで看取ってもらい、今は一人暮らしになった私のところに看護師さんが来てくれています。幸樹会とつながっていることは、何よりの安心です」。飯沼智子さん「この地域は賑やかとはいえない地域だったが、三和病院、幸樹会が来て、活気が出た。私も幸樹会の看多機さんしょうでボランティアしています。日野原重明先生が人はだれでもいつか老人になる。そのときにして欲しいようなケアを今目の前の人にしなさいと言っています。幸樹会のケアにもそのようなケアを期待しています。これからも一緒に暮らしやすい地域づくりをしていきましょう」。

日暮7丁目町会の阿部聖治さん、青柳雅紀さん、たんぽぽの会副代表・鈴木道子さん、三和病院や上原こどもクリニックのたくさんの職員の皆さんにご参加いただきました。ありがとうございました。

第24回地域交流カフェ

賑やかにクリスマス会

12月17日の地域交流カフェは、クリスマス会。さんしょうの利用者さんや卒業された方、以前ご利用されていた方のご家族、あんず訪問看護ステーションのご利用者や地域の方々など約60名の方々の参加で賑やかな会となりました。職員が調理した石狩鍋とローストチキン温野菜添えがテーブルに並び、皆さん美味しいと抜群の食欲を示されました。

食事を堪能したあとは、グレースホーム教会のみなさんによる賛美歌と、岡野牧師による講話です。きれいな歌に酔いしれ、お話でさらに心洗われました。さて今年のお楽しみの目玉は、職員有志によるマジックショーです。「コップの水を一瞬で凍らせる」「数字の

予言」「固く指を結んだ紐からのすり抜け」「一瞬の洋服替え」「玉がバケツを通り抜け」の五つのマジックが見事に決まり、“巡業ができるよ！”と称賛の声が飛びました。マジックショーのあとは、幸樹会ハンドベル部によるハンドベル演奏で「ジングルベル」と「よろこびの歌」。マジックもハンドベルも練習の成果が出て、拍手を浴びました。

ラストは、「きよしこの夜」「ジングルベル」の合唱で会を締めくくりました。　　　　　　（岡本健吾）

今は、さんしょうには週３回程通い、その他の日は自宅に訪問してもらっていますが、さんしょうの職員の皆さんのは、明るくて、親切にしてくれて良いですね。

先日の「クリスマス会」でプレゼントとして参加者にお渡ししたチョコの包装を手伝って頂いたのですが、とても手際が良く一緒に作業した職員との連携も素晴らしく、長年お勤めして社会生活をきちんと送って来られたのだと感じました。これからも元気で安心して暮せるようお手伝いさせていただきます。

元気な百歳！　石原和子さん

石原和子さんは、大正 8 年生まれの御年１００歳。昨年 7 月から、さんしょうをご利用になりましたが、とても１００歳には見えない元気な方です。石原さんにお話を伺いました。（聞き手・西川智恵）

私が生まれたところは東京の文京区本郷、江戸っ子ですね。

学生時代は足が早く、マラソンが得意でいつも１等賞だったわよ。

今も、杖の力を多少なりともかりながら階段を上り下りしたり、車の乗降が出来るのは、なんといっても子ども時代、学生時代に鍛えた脚力のおかげなのかもしれません。

学校卒業後は豊島区役所にタイピストとしてお勤めしました。その後、東京都の考査課（監査部）に異動となり定年まで４０年以上公務員としてお勤めしてきました。その頃は豊島区に住んでいて、その後に松戸に住居をかまえました。今は一人暮らしです。

定年後は社交ダンスを習い、紙人形作成の趣味を楽しんできました。特に社交ダンスでは情熱的な「タンゴ」が大好きです。ダンスパートナーになってほしいと幾人にも誘われて、モテモテだったわよ！。

介護職のこころ

さんしょう・介護福祉士　野崎圭介

私は介護の仕事を始めて 13 年目になります。この仕事をさせていただく中で、私は利用者の方の「らしさ」を大事にしていきたいと考えてきました。

その人らしい生き方、その人らしい個性で日々過ごしていただくこと。そのためには利用者の方がどういった生活を送り過ごしたいか、どのような不安を持たれているのか、ケアするものに何を求めているのか。それを把握し実践するというのが介護の基本的な部分だと考えています。しかし、それが一番難しい部分でもあるとも感じます。

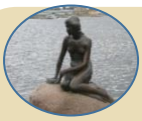
「その人らしく」を大事に

お節づくり

私は口下手で正直あまり話すのは得意ではありません。それによって話をうまく聞き出せないことや、話しづらいと思う方もいらっしゃると思います。しかし、その方との良い関係性が築けた時、何気ない会話やケアを行なう中で溢れるその方の思いや、「らしさ」を見つけられた時、とても温かい気持ちを感じることができます。

介護の仕事は辛いと思われている方もいらっしゃると思います。たしかに体力的につらいこともあります。利用者の方と向き合う中で悩むことも多くあります。しかしそれ以上に気持ちの温かさを体感できる仕事だと感じます。

今後もさんしょう職員としてご利用者の方にその人らしい生活を提供できるよう取り組んでいきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



デンマーク便り…⑳

ラスムッセン　京子

２人の女の子と遺伝子治療薬

デンマークの２人の女の子（写真）、カミーユ・クリステンセンとアンナ・シモンセンは、二人とも遺伝的欠陥を抱えて生まれ、将来は視力が低下します。

カミーユは現在16歳で､外が暗いとすでに視覚障害があります。彼女は、このままでは、30代のときには完全に失明する可能性があります。それは治療方法がないからではありません。

１回のワクチン注射で、カミーユとアンナが残りの人生でも視力保つ可能性がある画期的な遺伝子治療薬が開発されたからです。この薬は「ラクスターナ」(Luxturna)と呼ばれ､欧州での独占販売の権利を製薬会社ノバルティス（Novartis、本社スイス）が持っています。価格は一般には知られていません。

しかし、デンマーク医療評議会は、価格「不当に高い」として、標準治療としてその薬の使用を拒否しました。「医師として、そして人間として、私たちは患者に役立つ可能性のある薬の使用を許可したい。他方では、評議会として、効果と価格の両方で新薬を評価したいと思っている。だからこそ、今日の理事会会議で、使用しないと決めたのは正しい決定である」としています。

デンマークには、「ラクスターナ」が対象にする遺伝子欠損でバイアレルRPE65変異を伴う網膜ジストロフィーと呼ばれる稀な視力障害を持つ患者が 29 人います。国営放送の情報によると､「ラクスターナ」を使うコストは最初の３年間で6,300万デンマーククローネ(約10億円)に達するといわれています。

カミーユの両親は持ち家を処分して、この遺伝子治療薬代を調達し、米国まで行って片目の治療を受ける予定です｡その費用は片目だけで約250万クローネ(約4000万円）です。

この記事が今デンマークでは論議になっています

第 20 回さんしょう運営推進会議報告（12/17）

今回は、10月の地域交流カフェ・大運動会、作品展の報告をさせていただきました。利用者・ご家族の笑顔や奮闘ぶりなど、ふだんみることができない姿を見させていただきました。ご家族、ご夫婦の参加が増え、一緒にベントを楽しんでもらうことの大切さを実感しました。

さんしょうでのリハビリ方法についてご質問をいただき、生活の中で毎日行うリハビリの効果や取り組み方法、成果も報告しました。次回２月の運営推進会議ではこれから行う、「2019年度事業所評価」についてご協力をお願いしています。

参加者はご利用者の井上忠司さん、佐々木裕子さん、ご家族の小島幸太郎さん、本田智子さん、花井繁子さん、三和病院ＭＳＷ・藤巻園実さん、東部高齢者いきいき安心センター・海江田弘さん、かえりえ八柱・大森豊さん、輝楽の家・市澤浩明さん、幸樹会職員５名の計 14 名の参加でした。ご参加、ありがとうございました。

（大塚かすみ）

弘前・江刺・高遠から
りんごが届きました

青森県弘前・成田富作さん、岩手県江刺･寺島栄子さん､長野県高遠・橋本多美雄さんの皆さんから幸樹会にりんごが届きました。ありがとうございました。各地の瑞々しい味を皆で楽しみました。

「りんごといっしょに写真をとりましょう」と､田近八重子さんに声をかけると、サッと自分が作成したちぎり絵をとりだして、いっしょに写真に納まりました（写真）。

八柱学習会

●前回報告 12 月 20 日（金）　助言者　武井幸穂氏

「認知症ケア実践者研修」報告

看多機さんしょうケアマネジャー・石原育子

参加者 13 名。さんしょうの利用という環境の変化で不安を感じている認知症をもつＡさんが「居心地の良い環境」と感じてもらえる取り組みについて報告。

▼次回学習会予定（「定例日：毎月第３金曜日）

●１月１７日（金）、１８：３０～

在宅看護学会演題「医療的ケア児の訪問看護」報告

あんず訪問看護ステーション看護師・大橋麻子

場所：幸樹会館２階会議室《参加自由》

今月の屋上太陽光発電量は、

５４８ＫＷｈ

幸樹会館電力使用量 5253KWh　自給率 10.43%